

第 6 回 「新制名古屋大学の発展 1949 - 1989」

2015/5/26 大学文書資料室

0 戦後復興と旧制名古屋大学

(1) 戦時体制の払拭 (1945. 9～)

(2) 復興事業の開始

(a) 「名古屋帝国大学復興計画」(1947. 7、名古屋帝国大学復興委員会)
→①東山地区を名帝大建設地とする。②旧軍管轄施設の転用を見込む。

(b) 1946 年以降、名古屋市復興計画案に組み込まれる。

(c) 1947 年 1 月、名古屋市都市計画委員会が東山地区を名帝大用地とする計画決定。

(3) 新制名古屋大学への模索—旧制下での学部創設—

(a) 名古屋帝国大学復興後援会の結成(1946/10)

(b) 名古屋大学(旧制)と改称(1947. 10)

(c) 県会の 4 学部創設構想：旧制学部として農、法、文、経済学部の設置を構想

(d) 文、法経学部の設置(1948) …名城キャンパス(文、法経)、桜山キャンパス(法経)

(e) 岐阜農林専門学校越県包括構想(1947～48)の挫折←文部省「国立新制大学実施要領」
→旧制度化での農学部設置ならず、新制発足時の設置不可能(B L 11)

⇒新制名古屋大学の設置(1949. 6. 1) …文・教育・法経・理・医・工の 6 学部で出発

1 新制名古屋大学の成立

(1) 新制名古屋大学の誕生

①国立大学設置法(法律第 150 号、1949. 5. 31 施行) →69 校の新制国立大学が誕生

②新制名古屋大学

…文・教育・法経・理・医・工学部、環境医学研究所(1946、←航空医学研究所)、
空電研究所(→太陽地球環境研究所 1990)、附属図書館、
旧制名古屋大学、第八高等学校、名古屋経済専門学校、岡崎高等師範学校(B L 8)

(2) 学部・大学院の整備

- ①教育学部の創設（1949. 5）←学芸大学構想、文学部教育学科案
- ②「教養部」（瑞穂分校・豊川分校）の創設（1949. 7）←新制大学の一般教育重視
cf. 名古屋大学教養部の設置（1963）
- ③法学部、経済学部の独立（1950. 4）←旧制名古屋大学時代の3学部構想
- ④農学部の創設（1951. 4、BL11）
←名古屋大学農学部創設後援会、安城町の誘致
- ⑤新制大学院の設置（BL1）←新制度における学術研究水準の維持
…文・教育・法・経済・理・工学研究科（1953.4）、農・医学研究科（1955.7）

(3) 新制名古屋大学の規模と組織

- ①学生数とその出身地
- ②運営組織…評議会、協議会、教授会
←学校教育法（1947）、教育公務員特例法（1949）、「国立大学の評議会に関する暫定措置を定める規則」（1953、文部省令）

2 名古屋大学の整備・拡充—1950～60年代—

(1) 高度経済成長と名古屋大学の拡大

- ①高度経済成長（1950年代後半～1960年代）と大学
…職業教育・産業教育の重視、科学技術振興政策、大学大衆化の開始
⇒理工系学部の大拡充
- ②名古屋大学理工系学部の大拡充→工学部5号館、ES総合館、理学部D・E号館エリア
- ③プラズマ研究所の設置（1961. 4、全国共同利用研究所）＝日本の核融合研究の中心
→文部省核融合科学研究所（1991、現・大学共同利用機関法人核融合科学研究所）

④薬学部設置構想（1965年）→計画具体化し、概算要求するも却下

c.f. 大学院創薬科学研究科の設置（2012年4月）

（2）学生運動の時代

①名古屋大学の学生運動

…大学管理法案反対運動（1949）、レッドパージ反対運動（1950）、大須事件への参加（1952）

②60年安保闘争（1959～60）

…学生（教養部学生自治会など）、教職員の活動（集会・デモ・スト等の開催・参加・支援など）

→政治的学生運動の衰退

③大学紛争（1960年代後半～1970年）による混乱

…医学部紛争（インターン・無給医闘争、小児科講座選考問題）、東山地区への波及（学長の豊講への「軟禁」、本部・教養部封鎖）→大学改革の模索

（3）伊勢湾台風

①伊勢湾台風（1959.9.22）

…東海三県の被害＝死者4,600人、全・半壊家屋17万戸、被災者130万人

②名古屋大学への影響

…学生・教職員の被災（教職員88名、学生の7割が被災）、大学施設の被害（約1,600万円）、休講・試験の延期、

③学生・教職員による救援活動

…学生の75%が参加、「泥の会」「被災学生を守る会」、医学部による救援活動
→県議会の感謝決議、一般学生の政治・社会問題への自覚

（4）学生生活

…学内厚生施設、名大祭（講義12）、NUマークと学生・応援歌（「ちょっと名大史」41）、体育会（BL3）・文化サークル連盟の公認（1961）

3 名古屋大学の改革・再編—1970～80年代—

（1）低成長時代の到来と名古屋大学

①高度成長の終えんと緊縮財政の開始（1973年～）

→概算要求基準の厳格化、講座増設・学生定員増加の減少、教官定員の削減

②大学運営の改革

…学長選考方法の改革（選挙権の助手への拡大、職員・学生による意向投票）、
附置研究所の評議会参加、協議会の廃止と評議員の拡大、各部局の改革

③教養部改革（←大学紛争、大学設置基準の改正 1970）

…教養部の独自性、カリキュラムの改革（総合科目、少人数演習、選択自由度の拡大）、
四年一貫教育への模索

…→教養部の廃止（1993）、教養教育院の設置（2001）

（2）教育・研究体制の再編・充実

①全学的施設の増加（←各学部の再編）

…大型計算機センター（1971）、保健管理センター（1971）、水圏科学研究所（1973）、
総合保健体育科学センター（1975）、アイソトープ総合センター（1976）、
情報処理教育センター（1980）、省エネルギー研究センター（1982）、
遺伝子実験施設（1984）、先端技術共同研究センター（1988）など

②大幸キャンパス（1975年～）の整備と構想

…名古屋大学医療技術短期大学部の併設（1977、→保健学科 1997）、医学部附属病院分院
の移転（1979、→大幸医療センター1996）、歯学部設置構想（1971～84、実現せず）

③留学生の増加

…微増状態から著増（1970年代後半～）、激増（1980年代～）へ

←留学生向けコース等の創設、国際交流会館（1982）、名古屋大学留学生後援会（1985）
⇒「国際色豊かな」学風の形成

cf. グローバル 30（平成 21 年度～）の拠点大学に採択

④名古屋大学平和憲章の制定（1987）

⇒平和のための学術研究、「自由闊達」な学風の確認（→2008 学術憲章へ）

※本日スクリーンに映す写真の多くは、『名古屋大学大学文書資料室紀要』第 18 号に掲載されています。これらは、名古屋大学学術機関レポジトリからも閲覧することができます。

※本日使った表の多くは、プリントのほか、『名古屋大学五十年史』通史二に掲載されています。